

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 富山市立榆原中学校
種 別 中学校
所在地 〒 9 3 9 - 2 1 8 4
富山県富山市榆原 4 0 5
E-mail nireharachu@city.toyama.lg.jp
Website http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?id=toyama126
生徒数 男子 1 6 名 女子 1 5 名 合計 3 1 名
生徒の年齢 1 3 歳 ~ 1 5 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は、平成 2 9 年 2 月にユネスコスクールに認定され、今年度が本格的な活動の初年度となる。そのため、従来から実施してきた学校行事をユネスコスクールの視点からとらえ直し、本校の「ユネスコスクール」を模索・確立する活動に取り組んできた。

① 難民の子どもたちへ服を送る活動

本校生徒会は本年度、ユニクロが企画する「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加し、世界の難民へ服を届けた。活動の開始は、ユニクロから講師を招いての講習で、その中では活動の趣旨や以後の活動予定についての説明を受けた。使用済みの服の回収に際しては、回収数をできるだけ増やせるよう事前の呼びかけを行ったり、夏休みの親子活動の機会を利用したりするなど工夫した。回収に協力いただいたのは生徒の家族を始め、隣接する小学校の保護者や地域の方々に、地域のボランティア意識の高さを実感できた。回収した服は大型のダンボールで 10 箱、198kg に及び、アフリカのタンザニアに送られた。

この活動の成果として、生徒の視野を世界へ広げることができたと感じている。

② 「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」

本校生徒は、地域のユネスコ活動「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」に、隣接する小学校の児童と共にボランティアとして参加した。今年は、「折り鶴に平和の祈りをこめて」というテーマで、折り鶴と平和の関わりを発表し、参加していただいた方々にも折り鶴を折ってもらった。上行寺や小学校・中学校で折った折り鶴は「折り鶴プロジェクト」としてアメリカ・ユタ州の博物館へ寄贈することになっている。

一人一人のささやかな行動であっても、たくさんの人が協力すれば、やがて大きな力となり世界の平和や国際理解につながっていくことを願っている。

③ 地域貢献に関する活動

地域貢献を目的に、隣接する小学校と合同でボランティア活動を実施した。6月には、JRの駅と近隣の自然公園までの道路の清掃活動に取り組んだ。駅舎の清掃では、高い位置に取り付けられた時計のくもの巣をとったり、トイレの床や便器を磨いたりした。また道路のごみ拾いでは、放置された自動車用バッテリーを回収するなど、多くのごみを集めた。更に11月には自然公園内の遊歩道の整備を行った。作業に当たっては、里山を守る地域のボランティア団体からの支援を受け、児童生徒が縦割り班を作り活動を進めた。

中学校が単独で実施した活動としては、生徒会の呼びかけで集まった生徒が地域のデイサービスを訪問し交流を深めた。デイサービスのお年寄りには、日頃、若い人との交流が少ないため、この交流を満喫できたようであった。

これらのボランティア活動を経験することで、生徒たちは「人の役に立っている自己」を認識でき、自己有用感を高めることができた。

④ 国際交流に関する学習

1学年の生徒は「総合的な学習の時間」の取組で、併設する小学校と協力して、台湾の中学校との交流活動を行った。「アートマイルプロジェクト」と題して、日台両国の児童生徒が共同で1枚の絵画を作成した。絵画の作成作業前には、相互理解を深める意味を込め、スカイプを利用したり物資のやり取りを行ったりして交流を進めた。出来上がった絵画は、縦が約1.5m、横が約3.6mの大作で、両国の文化を伝え合う素晴らしい作品に仕上がった。



集めた子供服を箱づめしている様子



折り紙の回収している様子



遊歩道を整備している様子



担当箇所の絵を描いている様子

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 長期休業中)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・ウェブサイト (折り鶴に関する情報収集)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

前述の通り、今年度はユネスコスクールとしての本校の1年目であるため、手探りで取組を進める段階であった。

難民の子供に服を届ける「届けよう服のチカラプロジェクト」は教育課程外に位置付け、生徒会を中心に放課後や長期休業を利用して活動を進めた。「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」も教育課程外の活動で、地域のボランティアの方々に支援をいただきながら、地域住民の方々に向けてプレゼンテーションを実施した。地域貢献をねらいとしたボランティア活動は、特別活動に位置付け、台湾の学校と共同で絵画の制作を進めた「アートマイルプロジェクト」は「総合的な学習の時間」に位置付けた。

教育課程内に位置付ける活動に関しては、そのねらいや育てたい生徒の資質・能力を明確化していく必要性を感じている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクールに関する活動の企画に際しては、担当者が運営委員会に計画を提案し、審議・修正を受けた上で再び職員会で提案・審議・修正を行い、教職員への周知を図っている。また、多くの行事は併設する小学校と合同で計画・実施することも多いため、日頃から両校間での連絡を密にしている。加えて、それぞれの活動には地域の方々との連携が不可欠のため、他の学校行事の機会を利用し交流を深めるように心がけている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

繰り返しになるが活動初年度の手探りの段階であり、今年度の活動が今後の活動の基準となっていくであろうと考えている。

一方、隣接する小学校が以前からユネスコスクールに認定されており、軌道に乗った活動を展開している状況にあたり、地域に富山ユネスコ協会副会長で北陸 ESD 推進コンソーシアムの方がおられ、その方面からのアドバイスを受けながら活動を見直している。

成果としては、1年間の活動を通し見通しがもてたことが挙げられ、課題としては、活動のねらいと生徒につけたい力の明確化が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度の活動は、「ESD 富山シンポジウム」に参加し、その場をかりて発表を行った。発表時間の関係もあり、今年度に取り組んだ活動の内、難民の子供たちへ服を送る活動についてのみの発表内容とした。加えて、そのシンポジウムに参加した学校の発表内容をまとめた冊子が作成されて、関係機関へ送付されている。

発信の成果としては、活動に対する生徒のやりがいとプレゼンテーション能力の高まりが感じられた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

難民の子供たちに服を送る活動ではユニクロと地域の方々、「平和の鐘を鳴らそう in 上行寺」では地域の方々、地域ボランティア活動では JR や地域の方々、「アートマイルプロジェクト」では台湾の学校、そして発表の機会となった「ESD 富山シンポジウム」では、金沢大学、富山市教育委員会、他のユネスコスクールとのネットワークが形成された。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

併設する小学校とは日頃から頻繁な交流を進めているが、他のユネスコスクールとの交流は現在の段階では進んでいない。「ESD 富山シンポジウム」に参加し、他のユネスコスクールの活動に触れる機会をもてたので、今後交流を深めていくこともできるのではないかと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「ESD 富山シンポジウム」に参加することで、他のユネスコスクールの活動の様子が分かった。また、発表を受けもつ本校の生徒としても大変よい刺激になっていると感じている。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度、本校は「貢献」というテーマを掲げて活動を進める予定である。活動に際しては「貢献」の対象を「身の周り」「地域」「世界」という視点でとらえ、それらに対し「知る」「交流する」「貢献する」段階で関わっていく。

具体的に取り組んでいく活動は様々あるが、平成 29 年度に実施してきた活動で継続できるものは継続しつつ、「国際理解学習」に力点を置いて新たな活動を進めたいと計画している。

「国際理解学習」にあたっては、地域で国際ボランティア活動を推進している方もいらっしゃることから、それらの方々をゲストティーチャーとしてお招きし、生徒の意識を高めた上で具体的な貢献活動を行いたい。